

目 次

はじめに	iii
凡 例	vi
張錫純 自序	viii
例言〔前三期合編の凡例〕	xii
例言〔第五期の凡例〕	xxii
例言〔第六期の凡例〕	xxvi

第1章 処方

治傷寒方	3
麻黄加知母湯	3
加味桂枝代粥湯	6
小青竜湯解	10
従竜湯	21
饅水石膏飲	24
葛根黄芩黄連湯解	25
小柴胡湯解	27
通变大柴胡湯	38
加味越婢加半夏湯	39
治温病方	41
清解湯	41
涼解湯	46
寒解湯	46
石膏アスピリン湯	52
和解湯	52
宣解湯	53
滋陰宣解湯	53
滋陰清燥湯	55
滋陰固下湯	57
猶竜湯	58
治傷寒温病同用方	61
仙露湯	61
石膏粳米湯	89
鎮逆白虎湯	91
白虎加人參以山藥代粳米湯	93
寧嗽定喘飲	106
蕩胸湯	107
一味萊菔子湯	111
鎮逆承氣湯	112

治瘟疫瘟疫方	115
青孟湯	115
清疹湯	128
護心至宝丹	127
治瘧疾方	135
加味小柴胡湯	135
治霍乱方	139
急救回生丹	139
急救回陽湯	143
衛生防疫宝丹	142

第2章 医説・医話

第五期第4巻	155
喉証治法を論ず	155
咽喉証治法の詳論	157
第五期第5巻	171
傷寒脈緊および麻黄湯の変通を用いる法の論	171
大青竜湯中の麻黄は薄荷に代えるべしを論ず	174
小青竜湯を用いて外感痰喘を治す経過および変通の法	175
白虎湯および白虎加人参湯の用法を論ず	185
大承気湯の厚朴の分量は間違っていると思われる、および変通法を論ず	188
《傷寒論》大承気湯病脈遅の研究および脈不遅、転じて数となるものの変通下法	190
《傷寒論》大柴胡湯には本来大黄があつて枳実はあるべきでないことを論じる	192
陽旦湯について徐韻英の相談に答える	193
少陰傷寒病の有寒有熱の原因、および涼熱に関わらず脈はすべて微細の原因を論ず	193
《傷寒論》少陰篇の桃花湯は少陰寒痢を治し、少陰熱痢を治すに非ずの解	195

《傷寒論》は六経を以て篇を分けて未だ手経足経をいわ ず、および後世温病を論じるものは、手経に入り足経 に入らずといい、さらに温病は発汗に宜しからずの意 味を問う人に答える	197
温病の治法は《傷寒論》に詳しいとする解釈	200
《傷寒論》中の温病初期治療の方は用時に適宜変更すべき である説……漢皋の冉雪峰君の原稿募集に応じて	205
傷寒温病神昏譫語の原因および治法を論ず	208
傷寒風温は終始すべて汗解すべしの説	213
徐韵英《傷寒論》を読み四則を質疑するに答える	216
王景文が神州医薬学報になぜ真武湯で日夜休みなき熱が たちどころに効いたかを問うに答える	220
呉又可の達原飲は以て温病を治すべからずを論ず	220
呉氏《温病条弁》の二甲復脈・三甲復脈の二湯を論ず…	222
冬寒に傷るれば春必ず温を病む、および冬精を蔵さざれ ば春必ず温を病むの治法を論ず	225
伏気化熱で未だ顕然と温病にならない者の治法を論ず…	228
猩紅熱治法を詳しく論ず	230
天水散（すなわち六一散）は中暑を治すのに南方ではよ いが、北方ではやや変通すべしの論	236
伏暑成瘧の治法を論じる	238

第五期第6巻 241

黄疸には内傷と外感および内傷・外感の兼証があり、合 わせて詳しく治法を論ず	241
徐伯英が硝石礬石散を審定するを論ず	246
痢証治法を論ず 附：開胃資生丹	247
霍乱の治法を論ず	267
鼠疫の原因および治法を論ず	276

第3章 症例

傷寒門	297
傷寒兼腦膜炎	297
傷寒脈閉	299
傷寒脈閉 (2)	300
少陰傷寒	301
傷寒兼有伏熱証	302
溫病門	305
溫病兼大氣下陷	305
溫病兼氣虛氣鬱	307
溫病兼吐瀉腿抽	310
溫病少陰証	312
溫病結胸	316
溫病結胸 (2)	317
溫病	318
風溫	318
風溫兼伏氣化熱	320
溫病兼痧疹	322
溫病兼勞力過度	324
溫病兼下痢	326
溫病兼腦膜炎	327
溫熱泄瀉	329
溫病門 (2)	331
溫病兼虛熱	331
溫病體虛	332
溫熱腹疼兼下痢	333
溫病兼下痢	336
溫病兼下痢 (2)	337
暑溫兼泄瀉	339
溫病	340
溫病兼項後作疼	343
溫病兼脇疼	344
風溫兼喘促	345
秋溫兼伏氣化熱	347
溫病兼嘔吐	349
溫病兼嘔吐 (2)	351
溫病兼衄血便血	352
溫疹	353
溫疹兼喉痧	354
溫病兼喉痧痰喘	356
溫病兼喉疼	359
溫病兼陰虛	360
溫病兼喘脹	363
溫病兼虛熱	364
溫病兼吐血	365
溫病兼衝氣上衝	366
瘧疾門	369
瘧疾兼陰虛	369
瘧疾兼脾脹	370
瘧疾兼暑熱	371
瘧痢兼証	372

霍乱門	373
霍乱兼軋筋	373
霍乱吐瀉	375
霍乱脱証	376
霍乱暴脱証	378

第4章 傷寒論講義

第七期第1巻	383
六経総論	383
太陽病桂枝湯証	388
太陽病麻黄湯証 附：太陽と陽明合病麻黄湯証	392
太陽温病麻杏甘石湯	397
太陽病大青龙湯証 附：脈微弱汗出惡風および筋惕肉瞤 の治法	401
太陽病小青龙湯証 自製方の從竜湯を附す	405
太陽病旋覆代赭石湯証	411
太陽病大陷胸湯証 自製の蕩胸湯方を附す	414
太陽病小陷胸湯証 附：白散方	418
太陽病大黄黄連瀉心湯証	422
太陽病附子瀉心湯証 自訂の変通方を附す	422
太陽病炙甘草湯証	424
太陽病桃核承気湯証	428
第七期第2巻	431
太陽陽明合病桂枝加葛根湯証	431
太陽陽明合病葛根湯証	433
陽明病葛根黄芩黄連湯証 自訂の滋陰宣解湯方を附す	433
白虎湯の効用を深く研究する	436
続いて白虎加人参湯の効用を申べる	447
陽明病三承気湯証	453
陽明病茵陳蒿湯・梔子柏皮湯・麻黄連軋赤小豆湯諸発黄証	462
陽明病猪苓湯証	468
陽明病四逆湯証	470

第七期第3巻	473
少陽病提綱および汗吐下三禁	473
小柴胡湯証を論ず	475
大柴胡湯証を論ず	484
少陽篇三陽合病の治法	489
太陰病の提綱および意義	492
太陰病桂枝湯証	494
太陰病にして四逆輩に宜しき諸寒証	495
太陰病壞証桂枝加芍薬湯および桂枝加大黄湯証	495
第七期第4巻	499
少陰病の提綱および意義	499
少陰病麻黄附子細辛湯証	504
少陰病黄連阿膠湯証（自訂の坎離互根湯方を附す）	505
少陰病は灸すべしおよび附子湯証	508
少陰病桃花湯証	511
少陰病呉茱萸湯証	513
少陰病苦酒湯証	515
少陰病白通湯証，および白通加猪胆汁湯証	517
少陰病真武湯証	519
少陰病通脈四逆湯証	520
少陰病大承気湯証	522
厥陰病の提綱および意義	524
厥陰病烏梅丸証	525
厥陰病白虎湯証	528
厥陰病当帰四逆湯および当帰四逆加呉茱萸生姜湯証	529
厥陰病白頭翁湯証	530
不分経の病 焼褌散証・理中丸証・竹葉石膏湯証	533
温病遺方を附す	536
方剂索引	543
薬物索引	546
用語索引	549
傷寒論条文索引	553